

第4章 おわりに (次期環境基本計画への期待)

本報告書は、市民目線における環境対策についての提案であり、5年後、10年後の市川の姿はこうあってほしい、こうでなければならないといった考えによるものである。すなわち、市民が市川市に求める取組や期待する成果を提言したもので、市民から市川市に業務を委託するための「仕様書」と捉えてもらいたい。

環境基本計画は、こうあって欲しいと市民が望む市川市を作るために、資金を投じて行う事業計画の基本となるものである。環境マネジメントシステム(ISO14001)のように、単に市役所内部の担当業務だけにかかわる内向きの環境対策効果を求めるのではなく、環境基本計画ではこれからの市川市全体の環境をどのようにするのかといった将来ビジョンを描き評価しなければならない。

また、スローガンだけの環境基本計画では、「単に作っただけ」に終わってしまい、効果が見えないものになる。実現のためにはプロセス、プログラム、目標値があり、それを検証する手立てがなければ成果は見えてこない。さらに、持続可能な社会を形成するためには、短期的な環境対策だけではなく、中長期の環境保全戦略を明確にした具体的で実効性のある計画とすることが重要である。

次期環境基本計画においては、華やかで見た目のよいスローガンや項目のみの羅列ではなく、数値目標を掲げ、具体的な施策と工程表の策定を行い、その達成状況を確認・評価する仕組みを確立しなければならない。環境基本計画に基づく施策が効果的に実践され、実現への可能性が高まったとき、市川市の環境は市民が望む姿に改善されるものとなる。

なお、次葉に私たちが考える次期環境基本計画の位置づけを相関図で示す。

第一期市川市環境市民会議に参加したメンバー一人一人が、これからの市川の環境を真剣に思い描き、纏め上げた報告書である。市川市はこの提言を十分に理解したうえで、具体的な施策に昇華させ、実施事業として実践することを私たちは願うものである。

最後に、「みんなで築く持続可能な社会」への取り組みが新たな「市川の文化」になることを期待し、まとめとする。

市川市環境基本計画の位置付け

